

旧長田医院

麻生家住宅（登録有形文化財）

三重町市場　平成17年11月10日登録

三重町市場地区商店街に位置しています。昭和 40（1965）年頃より平成 15（2003）年まで、醤油の醸造施設（商号丸泉醤油）として醤油醸造・販売が営まれました。大きな松材を使った大黒柱や、防火に優れた漆喰で仕上げられている土蔵風の外壁など、明治初期の建築物の特徴を持っています。



麻生家住宅

蝙蝠の滝（登録記念物）

朝地町上尾塚・緒方町草深野

平成19年7月26日登録

大野川の上流にある、高さ約 10m・幅約 120m の馬蹄形の絶壁を流れる滝で、上空から見ると、まるで蝙蝠（こうもり）が羽根を広げた様に見えることから、この名前がついたとされます。明治 5（1872）～ 8 年には、竹田・犬飼間を結ぶ舟路（しゅうろ）開削の難工事が行われ、蝙蝠滝では、絶壁を迂回するために舟路が開削されています。舟路は平成 7（1995）年に大分県指定史跡となり、その後、滝本体が国登録記念物となり、注目を集めています。



蝙蝠の滝

沈堕の滝（登録記念物）

大野町矢田・清川町臼尾ほか

平成19年7月26日登録

雪舟により描かれた滝として有名です。幅約 100m 高さ約 20m の雄滝と幅約 4m 高さ約 18m の雌滝で構成されています。雄滝は明治から大正期に構築された発電所堰堤（えんてい）により往時の面影をなくしましたが、平成 8（1996)年に景観に配慮した修景工事が行われ、『豊後国志』に記述された「垂直分かれて十三条となる」の景観を取り戻しています。



沈堕の滝

（3）大分県指定有形文化財：建造物

石造宝塔（せきぞうほうとう）（川辺宝塔）

三重町川辺　昭和33年3月25日指定

川辺区の正明寺跡に所在し、地元ではしろべえさまと呼ばれている宝塔です。塔身の銘文によると、南北朝時代の明徳 4（1393）年に、12 名で結成された逆修講（ぎゃくしゅうこう）が造立した塔であることがわかります。

石造宝塔（蓮城寺永仁宝塔）

三重町内山　昭和33年3月25日指定

蓮城寺薬師堂脇に２基並ぶ宝塔で、塔身部には扉形を彫り、首部は２段で下段に高欄、上段に柱を立てた形を彫っています。県内では他に例を見ない様式で、畿内の中央工人による作と考えられています。向かって右側の塔の塔身の銘文から判断して、鎌倉時代の永仁４（1296）年と推定されています。



蓮城寺永仁宝塔

石造宝塔（蓮城寺文中宝塔）

三重町内山　昭和33年3月25日指定

蓮城寺境内にある宝塔です。基礎２面に格挟間をはさんで銘文があり、南北朝時代の文中４（1375）年の年号、及び多数の人名などの文字があり、時宗関係の結縁者による造立と考えられています。

石造宝篋印塔（法泉庵宝篋印塔）

三重町西泉　昭和33年3月25日指定

法泉庵区観音堂境内に所在する宝篋印塔です。基礎の４面に格挟間をはさんで長文の銘文があり、60人の地蔵講の結衆が南北朝時代の正平25（1370）年に造立したものです。石工は玄正で、彼の代表的な石造美術品です。

石造五輪塔（中尾五輪塔）

三重町久田　昭和33年3月25日指定

中尾区の納骨堂裏山にある総高255cmの巨大な五輪塔です。地輪に銘文があり、表面の剥落等で判読しにくいですが、南北朝時代の康暦３（1381）年造立と十阿という石工名が確認できます。地元では虎御前あるいは腹太と呼ばれ、安産祈願の信仰があります。

石造五輪塔（下赤嶺五輪塔）

三重町赤嶺　昭和47年3月21日指定

下赤嶺下区の道ノ上古墳の後円部頂上にある五輪塔です。火輪の一部の欠損がみられ、地輪の銘文より、鎌倉時代の正安２（1300）年に時宗関係者による造立と推定されています。

石造宝塔（不二庵宝塔）

三重町本城　昭和47年3月21日指定

深田区の通称不二庵跡にある宝塔で、相輪は欠失しています。塔身に金剛界四仏の種子のほか銘文があり、南北朝時代の暦応３（1340）年春の彼岸の中日に、良円が現世と来世の安楽を願って造立したことがわかります。

石造五重塔（川辺五重塔）

三重町川辺　昭和47年3月21日指定

川辺区の水田脇にある重層塔で、総高は273cmを測ります。最上部に相輪の代わりに一石五輪塔を配しています。基礎１面に銘文があり、室町時代の文明元（1469）年10月の造立です。地元では「くじゅうさま」と呼ばれ、火伏せの神として信仰されています。

石幢（大楽寺石幢）

三重町久田　昭和47年3月21日指定

中尾区の大楽寺跡にある大型の石幢です。龕部は八角で六地蔵と十王２体が薄肉彫りされ、笠・中台・幢身・基礎ともに平面は円形です。銘文から室町時代の大永８（1528）年２月に聖順居士が六地蔵信仰により極楽往生を祈って造立したことがわかります。

石幢（馬場石幢）

三重町上田原　昭和47年3月21日指定

上田原区の県道脇にある石幢です。龕部には六地蔵と十王の２体が雲座に乗って浮き彫りされていることが特徴です。銘文では、天文５（1536）年に筑後国生葉郡（現福岡県）で戦死した多田良鑑種の追善

供養のため造立されたことがわかります。

西岸寺石造宝篋印塔

三重町久田　昭和48年3月20日指定

久原区西岸寺境内に所在する宝篋印塔で、宝珠部は欠損し、基壇は失われています。南北朝時代の嘉慶元（1387）年［建徳元（1370）年との説もあり］の造立で、大工玄正（げんしょう）の作であることが刻銘で確認できます。

的場（まとば）石幢

三重町宮野　昭和51年3月30日指定

元は宮尾区的場にあった石幢で、龕（がん）部に六地蔵を半丸彫にして彫られていますが、十王像がないのが特徴です。銘文より室町時代の明応 2（1493）年 3 月 10 日の造立であり、近くの有田石幢と同一形式であることがわかります。

慈雲庵石幢1号

三重町秋葉　昭和51年3月30日指定

羽飛区慈雲庵境内にある石幢で、龕（がん）部は八角で各面に六地蔵と十王（鬼？）1 体、俗人（童子？）1 体を陽刻しており、それ以外の各部はいずれも平面は四角です。幢身に銘文があり、室町時代の永正元（1504）年に逆修供養のため造立したことがわかります。

神目寺石幢

三重町久田　昭和51年3月30日指定

中尾区の神目寺跡にある笠塔婆という形式の塔です。塔身の上部に四仏の種子があり、正面に銘があります。室町時代末期の永禄 7（1564）年に、斑甫座元禅師の現世安穏（げんせあんのん）・後生善処（ごしょうぜんしょ）を祈って弟子の清斑が造立したものです。

浄運寺宝篋印塔

三重町内田　昭和51年3月30日指定

浄運寺境内にある宝篋印塔で、相輪は宝珠の部分を欠いています。基礎の西面に銘文があり、造立は南北朝時代の文中 4（1375）年で、「別時衆」という文字がみられることから別時念仏講衆の結縁者によることがわかります。石工名は大工為宗で、同時期に活躍している玄正とは別系統の石工と考えられています。

神山石幢

三重町小坂　昭和51年3月30日指定

下小坂区の住宅地裏山林にある石幢で、龕（がん）部には六地蔵と十王一体、俗人一体が陽刻されており、彩色の痕跡も残っています。幢身にある銘文により室町時代の永正 4（1507）年に、法名道金・妙慶が現世安穏（げんせあんのん）・後生善処（ごしょうぜんしょ）を祈って造立されたことがわかります。

有田石幢

三重町宮野　昭和55年4月8日指定

宮尾区有田の道路脇にある石幢で宝珠下部を欠失しています。龕（がん）部は六角で六地蔵の半肉彫（はんにくぼ）りがあり、銘文により室町時代の明応 2（1493）年 4 月 15 日に逆修供養のために造立されたものです。近くの的場石幢と同一石工の作と推定されます。

地蔵院石幢

三重町秋葉　昭和55年4月8日指定

羽飛区西の深田区境近い山林中の地蔵院跡にある石幢です。龕（がん）部には六地蔵と十王 2 体を彫ります。幢身に銘文があり、衛藤主計允が月叟という院主の逆修供養のため建てさせたものであることがわかります。衛藤主計允は大友家家臣で白谷付近を領していた衛藤蔵人の子孫といわれ、紀年銘はありませんが全体の形式や宝珠の形から判断して、室町時代後期頃の造立と考えられます。

石幢（せきどう）（板井家石幢）

清川町宇田枝　昭和40年3月9日指定

宇田枝区に所在し、永正 13（1516）年在銘、総高 270cm の石幢です。幢身に中台、龕（がん）部、笠、宝珠と平面観は四角で、欠失部もなく保存は良好です。龕（がん）部には六地蔵のほか不明の像が彫られており、銘文から、法華経 1 千部の読誦供養のために六地蔵を建立し、現世安穏（げんせあんのん）・後生善処（ごしょうぜんしょ）を願ったことがわかります。

石造宝塔（足立家宝塔）

清川町六種　昭和47年3月21日指定

六種区に所在し、総高は 210cm の宝塔です。基礎には納経のためと思われる小孔があり、やや細身で平面観を隅丸の方形をとる塔身を載せています。塔身には鎌倉時代末の嘉暦 2（1327）年の年号や大願主頼行、礼拝供養などの銘文が見られます。



足立家宝塔

後藤家石幢

清川町天神　昭和56年3月21日指定

天神区に所在し、総高 268cm、大型で方形の石幢です。龕部には六地蔵のほか十王像 3 体が彫られ、彩色が残っています。「□□三歳丁丑十一月十二日」の紀年銘があり、各部の特徴が室町期の様相を呈していることから、康正 3（1457）年の石幢と推定されます。逆修塔であり「大工太郎四郎」の石工銘も見られます。

地蔵原石幢

緒方町大石　昭和48年3月20日指定

大石区に所在する総高 246cm の石幢です。平面は方形で豪壮な造りですが、笠部に垂木を刻み込むなど精巧な手法も施されています。龕部には六地蔵のほか 2 体の像が彫られています。銘文から永正 5（1508）年に現世安穏・後生善処を祈願した逆修塔であることがわかります。

三反畑板碑

緒方町上自在　昭和48年3月20日指定

上自在の耕地脇にある高さ約 3m の大型の板碑で、天授 3（1377）年銘のほか、大日如来、釈迦などを表す梵字が彫刻されています。緒方惟栄が背後の丘陵から投げて刺さったとの伝説があります。永福寺跡に建てられたもので、緒方一族の供養塔といわれています。



三反畑板碑

湯迫石幢

緒方町栗生　昭和51年3月30日指定

総高 283cm の巨大な石幢です。平面観方形で重厚な印象ですが、梵字や垂木の表現には精緻な部分も見られる優品です。龕部には六地蔵のほか 3 体の像が線刻されています。現在は鞘堂が設けられ手篤く保存されています。銘文には「金銀山六箱寺」や享禄 5（1532）年願主阿闍梨慶源により奉納されたことが記されています。

石幢（早尾原石幢）

朝地町上尾塚　昭和32年3月26日指定

上尾塚区早尾原に所在する単制の石幢で、暦応 2（1339）年の造立で、総高は 204cm です。幢身は八面でそれぞれの面が板碑型となっており梵字が刻まれており、あまり類例のない珍しい形式です。うち一面には浄土三部経一石一字とあり、平成 12 年の調査では基壇下から一字一石経が見つかっています。

石幢（池田石幢）

朝地町池田　昭和40年3月9日指定

一万田氏館跡の北の谷窪に所在し、総高 222cm、八角の塔身に方形観の中台を載せ、六地蔵を線刻した八角の龕部を持つ石幢です。銘文から応永 17（1410）年、悦山慶公の供養として造立されたことがわかり、一万田氏ゆかりの塔と考えられます。笠と中台が破損していますが歴史的価値の高い石幢です。